

海運の重要性を学校教育の場で
～東京都内にて出前授業および海事施設の見学会を～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、中野区立北原小学校5年生約60名を対象に、10月24日(火)に出前授業を実施し、11月2日(木)に川崎汽船およびダイトコーポレーションの協力を得て大井コンテナターミナルの見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【出前授業概要】

コンテナターミナルを始めとした東京港での社会科見学の事前学習として、まずは船や港がどのように生活に関わっているのか、身近なファミリーレストランや衣料品店を例にして、身の回りのものの多くが外国から船で運ばれてきていることを紹介しました。また、同校は大井コンテナターミナルを見学する予定であったことから、コンテナ型の小物入れや動画等も活用しながらコンテナおよびコンテナ船に主眼を置いた内容で授業をすすめ、東京港を経てどんなものが運ばれているかを説明しました。



その他、船員の仕事等についても紹介し、質疑応答では「船内での自由時間はどのように過ごしているのか」「乗船中は何時間くらい寝られるのか」など活発に質問が出ました。

【コンテナターミナル見学会概要】

コンテナターミナルでは、児童は2班に分かれて、①管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学、②バスでコンテナターミナル構内を見学、を夫々実施しました。

①管理棟屋上からのコンテナターミナル全景

管理棟屋上からは、ターミナルに着岸しているコンテナ船のガントリークレーンによる荷役だけでなく、トランスファークレーンによるコンテナの並び替え、トラックによる搬出など、様々な作業が同時に行われている様子を見ることができました。また、ターミナル全景に加えて対岸や両隣のコンテナヤードも見渡すことができ、さらに出入港する船舶の様子も見られ、児童らは初めて目にする光景に驚いた様子でした。



②バスでコンテナターミナル構内を見学

ダイトコーポレーション担当者とともにバスでターミナル内を周遊し、着岸している船舶の行先や、ヤード内を移動するトランスファーテナーやガントリークレーンにはブレーキがついていないこと、等の解説を聞きながらターミナルを見学しました。積み上げられたコンテナやクレーン等の巨大な設備を前に、児童は「クレーンがもし壊れたらどうするのか」など積極的に質問していました。



当協会は引き続き、会員会社や海事関連企業などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上